公益社団法人子ども情報研究センター

代表理事退任のご挨拶

森山　康浩

私が代表理事の 13 年間、子どもの悩み・虐待・いじめ・子育ての悩みなど、子どもの環境は大きく変容しました。そんな問題や課題解決のため、センターの活動に積極的にかかわる人々を見て、私はいつも感服していました。おかげで˝化石人間˝の私でも務めることができました。今、感謝の念でいっぱいです。

私の在任中に大きな変化が 3 つありました。

１，一般社団法人から公益社団法人への移行です。1994 年「子情研」改称の頃から、社会的要請を受けて活動の幅や内容が拡大してきました。そこで、会員の拡大、人材の養成、活動の場と財源の確保、税制と寄付の優遇措置などを確立するために侃々諤々の議論をし、2014 年の総会で公益法人移行を決議しました。これによって社会的信用を得ると同時に、確かな定款(規約)のもとで健全な運営や情報公開など社会的責任が伴うことになりました。その後 6 年の間にさまざまな改善を加えながら将来に向かっています。

２，「はらっぱ舎」の開設です。1977 年乳幼児発達研究所（乳研）設立以来、理論と研究を実践できる保育所をつくることが懸案でした。用地確保、資金調達と返済の契約、地域住民との合意、設計依頼、膨大な書類作成と多方面への登記や申請、認可手続き…、職員と入所児の募集、保育方針やカリキュラム編成、施設・設備・備品の設置と整備…、膨大で綿密な計画と準備を経てようやく開所。日々成長する子どもたちの姿を目の当たりにして喜びもひとしおです。さまざま生じる課題も次の充実と飛躍につなぐ糧にしています。

３，新しいスタイルの活動を展開する好機です。新型コロナウイルス感染禍、収束後の社会を見据えて、従来の生活様式の考え直しが迫られています。私たちは、子どもとの活動のなかで肌と肌で触れ合い、ことばを交わし合うことのたいせつさを知っています。子ども権利条約の意義を再確認して前進しましょう。